
うみねこのなく頃にを推理してみた。 EP1 EP4

ドイル

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

うみねこのなく頃にを推理してみた。 EP 1 EP 4

【コード】

N0577Q

【作者名】

ドイル

【あらすじ】

注意 これは小説ではなく、うみねこをミステリーにしようという趣旨のもと書きました。一応戦人とベアトリーチェの戦い風にしてますが、粗が多いと思います。またこれは完全な作者の想像です。もちろん本家様とは何の関係もございませんし、これが正解でもないと思います。あくまで可能性の一部としてお読みいただけると幸いです。それを了承した上でお読みください。

Episode 1

ここではうみねこのEP1〜4までを独自の考察と解釈で解いていこうと思います、

なのでこれは『完全なる私個人の想像』です。

一応、赤き真実とそれからノックス十戒を頼りに推理していこうと思います。

なお。赤き真実とノックス十戒は『』で示します。青は〔〕で表します。

「よろしい、では第一のゲーム、第一の晩からだ。」

「園芸倉庫での殺人か。前にも言ってるぜ。「アリバイのない誰にでも犯行は可能だった。」」

「ほう、では誰がやったのか。なぜ顔を耕したのか、どうやって園芸倉庫へ運んだのか。人間が犯人というなら、これら全てを答えてみよ。」

「ハウダニット、フーダニット、ホワイダニットか……。」

「そうとも。ミステリーなら守れてなければならないルールよ。」

「……いいぜ、説明してやる。まずどうやって園芸倉庫へ運んだのか、これはあの時の俺も言ってるぜ。「犯人は複数いた。一人なら無理でも複数なら可能だ。」」

「ほう、してほかの二つの回答は？」

「第一の晩の犯人は共犯も含めて、絵羽おばさん、秀吉おじさん、嘉音君、紗音ちゃんて説明できる。」

「お、おい待て、紗音は第一のゲームで殺されたぞ。」

「なら、それを赤で言ってもらおうか？」

「くっ……身元不明死体について、その身元を保証する。即ち、替え玉トリックは存在しない。」

「身元不明死体なんて必要ないぜ。俺は紗音ちゃんの死体を目撃していない。紗音ちゃんの死体を見たことが描写されてるのは、秀吉おじさんと嘉音くんだ。この二人が虚偽を言っていた。よって、紗音ちゃんが生存していた可能性がある！」顔を耕したのは、紗音の死体を見られないため。想像してみる。五つの残忍な死体があつて奥にもう一つある。そして奥の死体も誰であるか分かる。それを好き好んで見に行くか？どこかの変体探偵でもなけりや見に行かないぜ？夏妃おばさんも入り口で踏みとどまっていた。普通ならそうなるだろうよ。つまりあの残酷な死体にも意味があつたのさ。」

「……有効だ、続いて第二の晩だ。そなたが犯人と言っていた絵羽と秀吉が殺された。しかも密室でだ。これまでの赤を繰り返そう。二人は他殺である。密室構築後に片方を殺害の後に自殺したのではない。また、殺人は執行者、犠牲者が同室して行われた。執行者が室外から殺害する手段は存在しない。」

「紗音ちゃんが犯人で説明可能だ。二人を殺した後、ベットの下面でも隠れた。」

「有効だ。次だ、ボイラー室にて嘉音が刺された。赤を繰り返す。」

「死者も含め、島の全ての人物にアリバイがある。つまり島のいかなる人物も嘉音を殺すことはできなかつた。」嘉音は自殺ではな

い。』さらに赤を追加する。『嘉音は事故死ではない。』」

「他殺でなく、自殺でなく、事故死でもない……こう整理すると簡単さ。俺は二つの説を提示する。一つは「嘉音くんの死亡宣言はなされていない。よって、嘉音くんは生存していた可能性がある。この場合、南條先生が共犯だった。つまり刺されて、死んだという全てが虚偽だった。」もう一つ、お前は赤字で『誰にも殺せなかった』とっている。つまり、「殺した」んではないんだ。」

「どついつことだ？」

「つまり「殺した」のではなく「負傷した」という表現が正しいのさ。「嘉音くんはたしかに刺された。それにより、確かに重傷を負い、虫の息だった。南條先生も誤診するくらいにな。だが本当はそれが直接の死因じゃなかったんだ。後に起きたある出来事によって死んだ。」

「ほう、ある出来事とは？」

「……それはまだ保留にしてもらつぜ。全ての最後に説明する。」

「……よかろう、次だ。客間にて、源次、南條、熊沢の三名の殺人。繰り返す。『同室していた真里亜は殺していない。』『三人は他殺だ。』さらに追加。『源次、熊沢、南條は殺人者ではない。』」

「（これも紗音ちゃんが犯人で説明可能だ。）」

「うむ。では次はどうか。夏妃の殺人だ。『夏妃は他殺である。』『生存者も全員アリバイがある。』『夏妃の額に埋まりし銃弾は、』

夏妃の銃から放たれたものではない。』さらに追加。『夏妃を射殺したのはトラップでなく、銃を構えて引き金を引いて、しっかりと射殺した!』つまり、生存者全員にアリバイがあるにもかかわらず、射殺された。」

「定義確認。生存者の定義とは？」

「生きている者のことに決まっておろう。」

「俺が聞いているのは、いつの時点で生存していれば生存者ということだ？」

「そ、それは・・・その、だな・・・」

「言えないのなら、好きに解釈させてもらっせ。生存者というのは、事件発覚時に生存している者とする、以下の仮説が立てられる。」

「夏妃おばさんの銃から煙が出ていた。つまり、相撃ちさ。夏妃おばさんと犯人。相撃ちにより同時に死亡した。よって、犯人は紗音ちゃんと仮定する。」これで第一のゲームは打ち破ったぜ。」

「さすがよ。では続けよう。第二のゲームだ。」

続く

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0577q/>

うみねこのなく頃にを推理してみた。 EP1 EP4

2011年1月16日07時51分発行